

たきのみちゆずるに  
会えるよ〜♪



# 第7回

# ハートパーク

## ココロとココロのふれあい広場

日時 **11月20日(土) 10:00 ~ 16:00**

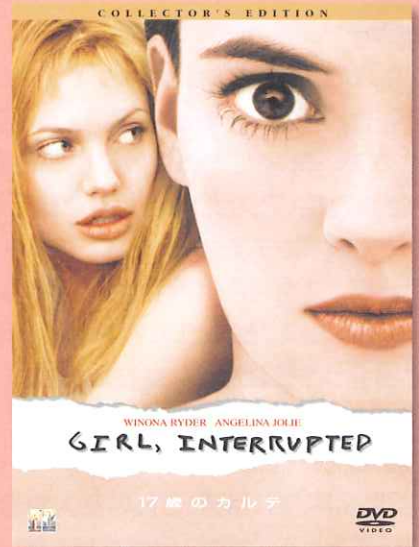
箕面市立 **メイプルホール** 大阪府箕面市箕面5丁目11番23号  
阪急箕面線箕面駅より約700メートル

**入場無料**

映画のみ有料  
(参加協力金 500円)  
介護者は無料

ハートパークは、地域のみなさんとの交流を通して、ココロの病について正しく理解していただき、障害者が一市民として、当たり前地域で生活していただけることを願い、毎年開催しています。

心あたたまるイベントにしていきたいと思っていますので、ぜひみなさんお越しください。



日本語吹き替え・字幕ありです。

監督 ジェームズ・マンゴールド  
製作総指揮 ウィノナ・ライダー / カロル・ボディ  
出演者 ウィノナ・ライダー / アンジェリーナ・ジョリー

○当事業は箕面市の補助金で運営しています。

掘り出し物・  
おいしいがいっぱい  
**にぎやかバザー**

■屋外・芝生広場  
●11:00 ~ 15:00  
古本・花苗・雑貨・屋台が  
です♪

自殺を考えているひとは  
悩みを抱えながらサインを発している  
**自殺のこと知っていますか?**

■小ホール  
●10:00 ~ 16:00  
パネル展示・パンフレット配布  
自殺予防ビデオ上映

**映画上映**

**「17歳のカルテ」** 127分  
■大ホール  
●1回目上映...10:25 ~ 12:40  
2回目上映...13:30 ~ 15:40  
チケット代: 500円 (参加協力金)

**プレイガイド** 映画上映会の参加協力券はコチラで取扱いをしております。

- 箕面市立 **メイプルホール** TEL 072-721-2123  
大阪府箕面市箕面5-11-23
- 小規模通所授産施設 **あっとほーむ** TEL 072-730-6950  
大阪府箕面市外院3-7-35
- 地域活動支援センター **パオみのお** TEL 072-726-7800  
大阪府箕面市船場西1-11-35 総合保健福祉センター分館

**お問い合わせ**

箕面市精神障害者市民地域交流事業  
ハートパーク実行委員会  
〒562-0026 箕面市外院3-7-35  
TEL & FAX: 072-730-6950  
小規模通所授産施設 あっとほーむ



一時保育は、事前の  
お申し込みが必要です。

主催  
後援

箕面市精神障害者市民地域交流事業 ハートパーク実行委員会  
箕面市教育委員会 / 大阪府池田保健所 / 社団法人箕面市医師会 / 箕面市人権啓発推進協議会 / 大阪府ココロの健康総合センター  
社会福祉法人 箕面市社会福祉協議会 / 財団法人 箕面市障害者事業団 / 特定非営利活動法人 市民活動フォーラムみのお  
精神保健福祉ボランティアグループココロの会 / みのおみちくさロード / 箕面市精神障害者家族会みのお会 / 社会福祉法人 息吹

日本公開から 10 年 時がすぎてもまだこころの奥に響く  
人間を見つめる 愛おしいストーリーを  
あなたへ いま 届けます。

# 「17 歳のカルテ」

## GIRL, INTERRUPTED

上映時間 2 時間 7 分 / SR・SRD・SDDS/  
字幕翻訳：太田直子 1999 アメリカ

### イントロダクション

原作はスザンナ・ケイセンの回想録。自身、精神病院で2年間を過ごした彼女は、人に明かしたことのなかった人生の一時期の光景をスケッチ風に綴り、退院から25年後の1993年に出版(『思春期病棟の少女たち』吉田利子訳/草思社/1994。)した。この鮮烈な真実の物語は即座にベストセラーになり、ニューヨーク・タイムズで11週間もランクイン。少女たちの気分を雄弁に語りつつ、思いがけないユーモアに彩られたストーリーが若い女性たちに熱狂的に支持されただけで

なく、「カッコーの巣の上で」などに匹敵する自伝的著作と絶賛された。原作は少女の悩みと希望、とまどいと迷いを描くと同時に、拘束と自由、友情と裏切り、そして世の中全体が混乱しつつあるかに見える時代について問いかけている。そして、大人への階段を上りかけた少女たちが自分を表現しようとしてあがき、感情的、肉体的に揺れる姿を冷静な洞察力を持って描き出す。そこには悲しみとユーモアが混在し、人間を見つめる愛おしい視線が感じられる。

### ストーリー

時は1967年。17歳のスザンナ・ケイセンは、ごく普通のアメリカのティーンエイジャーだった。混乱し、不安に苛まれ、自分の周囲でめまぐるしく変わる世界に意味を見出そうと必死になっていた。彼女はアスピリンを大量に飲んで自殺を図り、軽い気持ちで精神科に入院する。そこで診断された病名は“ボーダーライン・ディスオーダー(境界性人格障害)※”。切れてしまいそうな神経を抱え、とまどい、揺れ動くスザンナ。けれど、この病院で出会った風変わりな女性たちは、彼女の親友になるだけでなく、見失っていた自分自身を取り戻す道を明るく照らし出してくれた——。※【ボーダーライン・ディスオーダー】自己のイメージや長期的な目標、どんな友人や恋人を持つべきか、どんな価値観をとるべきかに自信が持てない症状をいう。スザンナ(ウィノナ・ライダー)は自殺するつもりではなかった。何かにいらだっていた。何かが不安だった。作家になるつもりだったが、両親には理解してもらえず、両親の了解のもと、クレイムア病院に送られる。入院同意書にサインしたスザンナは、“自らの意志”によってこの世界へと足を踏み入れた……

主人公であるスザンナの精神病院への入院から退院までを描いた映画で精神障害当事者やその家族の心情の変化、また精神障害の治療や病院内での様子が丁寧に表現されており、見て良かったと感じる内容でした。

スザンナの「何が正常で、何が異常なのか…」というフレーズはこの映画を見た人自身が精神障害について考える良いきっかけになると思います。

この映画を通してもう一度、精神障害について考えてみませんか？

田中 孝幸  
(社会福祉法人息吹 小規模通所授産施設もみじの家)

## ハートパークのいろいろ

掘り出し物・  
おいしいがっぱい  
にぎやかバザー

- 屋外・芝生広場
- 11:00～15:00
- 古本・花苗・雑貨・屋台がですす♪



自殺を考えているひとは  
悩みを抱えながらサインを発している

### 自殺のこと知っていますか？

- 小ホール
- 10:00～16:00
- パネル展示・パンフレット配布
- 自殺予防ビデオ上映

